



四季便り

The Garden of Medicinal Plants, Kinki University



ツバキ(ヤブツバキ)

学名 : *Camellia japonica*

生薬名 : 山茶

薬用部位 : 種子、花、葉



照り輝く常緑の葉をもち、厳冬のなかでも鮮やかで凜とした花を咲かせるツバキ。日本原産の花木で、室町、安土桃山時代から茶道や華道に取り入れられて広まり、園芸品種の栽培が流行しました。18世紀に入ると西洋にも伝わり、「日本のバラ」として王侯貴族にもてはやされました。19世紀にオペラ「椿姫」が公開されるとさらに広まり、フランスのブランド「シャネル」のモチーフにもなされています。

椿 ツバキの名の由来には諸説あり、葉がツヤツヤして厚いことから「艶葉木」、「厚葉木」が転訛したものとされます。日本では、ツバキは「椿」と書かれますが、中国では「山茶」で、「椿」はチャンチン(香椿)という別の植物を指します。日本でツバキに「椿」の漢字を当てたのは、寒い最中にたくさんの花をつける生命力、常緑樹から連想される長寿・繁栄といった要素が、『莊子』に登場する長寿で神聖な伝説上の木「大椿」に共通していたことに由来するという説や、「椿」は漢字ではなく、春を告げる樹木であることから「木」と「春」を組み合わせでできた国字(日本で独自に作られた漢字)ではないかという説もあります。

ツバキは花が散る時、首から丸ごとポトリと落ちるので、斬り首のようにも見え、縁起の悪い木だと嫌わ

れることもありますが、一方で、現代でも正月の初卯の日に、ツバキの木でつくった「卯杖」が飾られるなど、邪気を払う神木とされています。

ツバキは生活の中にもあらゆる形で貢献し、ツバキ油は、古来、油料として重要で、灯油、食用、化粧品用、薬用(軟膏基剤、頭髪用油)として欠かせないものです。秋に赤茶色に色づいて成熟した果実が丁寧に収穫され、搾油作業が始まります。髪や肌を艶やかにし、日本人の美を支えてきたツバキ油が近年見直され、シャンプーなどに配合されて大々的に宣伝されるなど、その効用が再注目されています。さらに、葉は関節や筋をちがえたときに、乾燥した花は刻んで滋養強壮の健康茶として、実は黒焼きにして夜尿症などに飲まれます。また、材質の堅い木を表して「一椋二茱萸三椿」と言われ、幹は古くから武器や農具など多用途に使用されてきました。

ツバキは、学内でも多く見られるサザンカとよく似ていますが、サザンカは秋咲きで、雄しべが筒状ではなく、多くは花びらが個々に散るので区別が付き

